

新学習指導要領における 「話すこと・聞くこと」の 授業づくりと評価



東京都東村山市立東村山第二中学校 ひとみ まこと 人見 誠

今回の学習指導要領の改定では、学習評価の観点
が5観点から3観点に変更された。学習指導要領の
基本理念については、平成20年版学習指導要領か
ら大きな変化は見られず、平成10年版学習指導要
領で提唱された「生きる力」の育成を引き継いでい
るといえるだろう。

一方で評価については、従来は観点の数も他教科
とは異なっており、各領域をベースにした国語科独
自の観点が示されていたのに対し、今回は全教科で
共通のものとなった。学習指導要領が示す、コンピ
テンシーベースの学力観からすれば、これはむしろ
当然のことなのだが、学習指導要領と評価の観点が
同時に変わることは、学校現場に少なからず混乱を
もたらす可能性がある。平成10年版学習指導要領
が実施され、観点別評価が導入された平成14年度
当時と似たような状況が、今年度も生まれている。

では、実際にはどのような課題が見られるのか。
大きく2点あげられる。

- 1 「話すこと・聞くこと」「書くこと」などの、表現
系の授業が減少傾向にある。
- 2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法
にばらつきが見られる。

1については、評価の観点が変わり、「話すこ
と・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域は、
言語活動を通して指導事項を指導することとして
「思考・判断・表現」に位置づけられたためだと考
えられる。特に「話すこと・聞くこと」は、以前か
ら評価の難しさが課題としてあげられ、実際には市
販の聞き取りテストを行い、そのまま評価材料にし
ていたケースもあったようなので、直接評価材料が
必要なくなった今年度になって授業で取り上げる回
数が減ったということが推測される。しかし、この
まま「話すこと・聞くこと」の活動がほとんど行わ

れない、あるいは行われたとしても何の見通しもな
く、ただ活動するだけでは、言語活動を通じて思考
力等を養うことができるとは思えない。

2については、国語科だけでなく全教科共通の
課題であるが、「関心・意欲・態度」との違いは何
か、具体的に何を評価すればよいのかといった声
が聞かれる。「主体的に学習に取り組む態度」の指
導にあたっては、「粘り強さ」と「自己調整」の二
つがキーワードとしてあげられる。「粘り強さ」と
は、学習の過程において「別の面からも考えてみよ
う」「もう少し調べてみよう」「もっと改善してみよ
う」「さらに工夫してみよう」「もう一度やってみよ
う」という姿勢、また「自己調整」とは、単元の最
初に「今回はこんなことを目標にしよう」と考えた
り、学習の過程で「できたことは〇〇で、できな
かったことは△△だ。だから、次の時間は□□しよ
う」と考えたり、「今回の学習は次に〇〇のように
生かそう」と振り返ったりする姿勢だといわれてい
る。いずれも、授業のどういった場面で評価すれば
よいかということが課題としてあげられる。

では、どのように取り組めばよいのか。

1については、身につけるべき技能を明確にし
(知識・技能)、それを踏まえて活動させ、ポイン
トごとに振り返り、確認しながら技能を定着させる
こと(思考・判断・表現)が重要である。

また、2についてはポイントごとの振り返りで自
分の今の姿をメタ的に捉えさせ、改善させる活動
(粘り強さ)や、学習の最後にそれらを線でつない
で次の学びにつなげる活動(自己調整)を、学習の
過程に取り入れることが大切になる。

このような視点は、次ページで紹介する授業実践
で、具体的に取り上げられているので、併せてご覧
いただきたい。

実践（第1学年 話すこと・聞くこと） 相手に伝わりやすい「話し方」「聞き方」を工夫しよう

東京都東村山市立東村山第二中学校

かんだふみか
神田郁佳



目標

- ・音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。
〔知識及び技能〕(1)ア
- ・相手の反応を踏まえながら、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。
〔思考力、判断力、表現力〕A(1)ウ
- ・相手に伝わりやすい話し方や聞き方を粘り強く考えながら、よくまとめようと工夫している。
〔学びに向かう力、人間性等〕

1 本時の学習指導案（略案）

（第2時／全2時間）

本時はトーキングアイテム「シャベリカ」を活用した話し合い活動の第2時である。「シャベリカ」とは、話すテーマが書かれたトランプで、生徒は引いたカードに示されたテーマで話をする。

第1時では、導入で「話し上手な人」「聞き上手な人」にはどのような特徴があるのか生徒に考えさせ、活動を通して自分の話し方、聞き方を振り返り工夫することを目標とした。また、生徒にとって初めての話し合い活動であるため、一つの班をモデルとし、「話し手」「聞き手」「評価者」の役割を明確にすることで、確実に知識・技能を身につけさせることを目的とした。本時はその学びを生かして、よりよい話し方、聞き方の工夫を考え、身につけることをねらいとしている。

2 本時の目標

- ・前時の学びを生かして、よりよく話したり聞いたりすることができる。
- ・相手に伝わりやすい話し方や聞き方を粘り強く考えながら、よりよくまとめようと工夫している。

3 本時の展開

（第2時／全2時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の規準と評価方法
3分	○前時の学習を振り返る。	・前時のワークシートを用いて、自分の考えた話し方や聞き方を振り返らせる。	
前時の学習をふまえて、相手に伝わりやすい「話し方」「聞き方」を工夫しよう。			
5分	○話し合いのルールを再確認する。	・活動がスムーズに進むように、前回と同じグループで活動を行うよう指示をする。 ・グループ内での役割を示す。 《話し手》 テーマに沿って、聞き手を意識しながら話す。 《聞き手》 話に割り込まず、あいづちなどの動作をして話し合いに参加する。 《評価者》 話し手と聞き手を観察し、気づいた点をメモする。	
9分	○テーマについて話の内容を考える。	・事前に話し合いがしやすいテーマをいくつか選んでおき、その中から生徒に決めさせる。 ・どのテーマでも話し合いができるように、自分が話す内容だけでなく、質問も考えるように指示をする。	
20分	○話し合いを行う。	・机間指導をし、生徒の活動を促進する。また、必ず結論を出すよう促す。 ・役割を変え、三回活動を行わせる。 ・話し合い活動の時間は一回を三分とする。 ・どのような結論になったのか、話し合いが終わった後に発表させる。	・ワークシートや前時の学びを生かして、よりよく話したり聞いたりすることができる。 【思考・判断・表現】(ワークシート)
13分	○活動を振り返り、ワークシートに自分の考えを記入する。	・評価シートなどを参考に、話し方、聞き方の工夫を考えさせる。 ・机間指導をし、生徒の活動を促進しつつ、適宜助言を行う。	・相手に伝わりやすい話し方や聞き方を粘り強く考えながら、よりよくまとめようと工夫している。 【主体的に学習に取り組む態度】 (Cと判断する状況への手立て) 活動の中で気づいた他者の話し方、聞き方の工夫点を参考にして考えさせる。

◇ トーキングアイテムを使って 話し方・聞き方の工夫を考えよう！

【ルール】

- ① 四人班で行う。(話し手二人、聞き手一人、評価者一人)
- ② 一つのテーマについて話し手二人が話し、聞き手は聞き役に徹する。評価者は話し手・聞き手の様子を観察し、評価シートに評価・気づいたことを記入する。
- ③ 話し手はスピーチメモを参考に話し合い、テーマについて結論を一つ出す。(おしなべりで終わらせない。)
「話し手二人と聞き手の三人で話している」という設定なので、視線の向け方にも気をつけること。
また、聞き方のポイントである「あおいふく」を意識して話すこと。
「あおいふく」とは？ あ…あいづち お…驚き い…言い換え ふく…復唱
- ④ 聞き手はあいづちを打ちながら聞く。(話し手の音楽を流したり、会話に参加したりしてはいけない。)
- ⑤ 評価者はトーク終了後、評価シートを三分割して話し手・聞き手にそれぞれ手渡す。

◇ スピーチメモを作成しよう！

話す内容を事前に考えることで、短い時間で話をまとめることができます。

トークテーマ	メモ
	自分の考え、その理由など(具体的に！)

▲ ワークシート表

◇ 自己のふりかえり・学び【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】

前回の学習と評価シートなどを参考に、よい話し方とよい聞き方の工夫をそれぞれ具体的に書こう。

*** 評価シート(他の人の意見)を参考に、よい「話し方」「聞き方」について自分の考えがどのように変化したのかを書かせる。**

評価シート貼りつけ欄

(もらった評価シートをここに貼りつけよう！)

▲ ワークシート裏

4 指導の工夫

①ワークシートの工夫

話し合い活動のルールや注意を明記している。口頭での説明だけでなく視覚的に生徒に示すことで、理解を促すことができる。また、裏面に評価シートを貼りつける欄を設けることで、他者の意見も参考にしながら自己の考えを広げたり深めたりすることができる。

②評価シート(右図)の工夫

話し合いの様子を見ながら評価をしなければならないため、評価項目を少なくし五段階評価にした。

一言欄には、気づいた工夫点や改善点を記入するように指示する。

5 成果

多くの生徒が第1時で「あおいふく」(ワークシート参照)の大切さを実感できていた。あいづちには「話を聞いてもらえている」と感じさせる効果があるとわかった生徒は、第2時では積極的にあいづちを打ち、相手が話しやすくなるように工夫をしていた。このように、この話し合い活動は、たった2時間で生徒によい「話し方」「聞き方」の基礎を身につけさせることができる。

【話し手】氏名 () 評価者 ()

努力が必要 ←→ よい

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| ① スピーチメモを参考に、はきはきと話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 話し手・聞き手の両方に視線を向けながら話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 聞き取りやすい声の大きさ・速さで話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 聞き手に印象づけるために、抑揚をつけるなどの工夫をしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

<一言>

キリトリ

【話し手】氏名 () 評価者 ()

努力が必要 ←→ よい

- | | | | | | |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| ① スピーチメモを参考に、はきはきと話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 話し手・聞き手の両方に視線を向けながら話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 聞き取りやすい声の大きさ・速さで話すことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ④ 聞き手に印象づけるために、抑揚をつけるなどの工夫をしている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

<一言>

キリトリ

【聞き手】氏名 () 評価者 ()

努力が必要 ←→ よい

- | | | | | | |
|----------------------------|---|---|---|---|---|
| ① うなずき・あいづちをしながら聞くことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 話し手二人に視線を向けながら聞くことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ③ 話の途中で割り込みず、最後まで聞くことができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

<一言>

▲ 評価シート



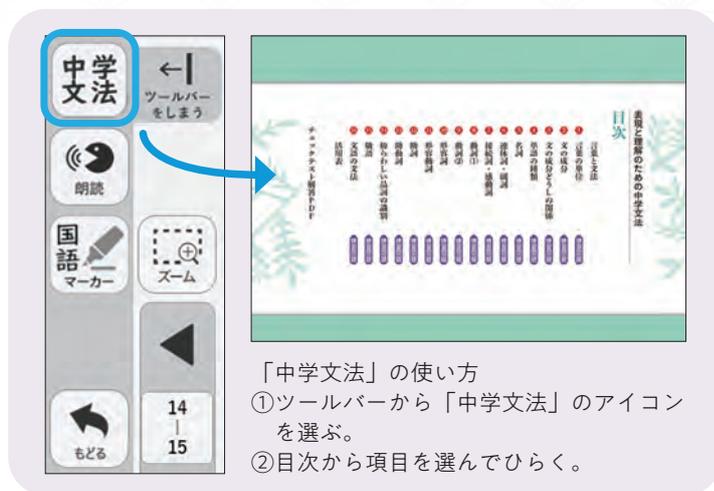
国語科の授業で使えるデジタル教科書の機能を、
具体例とともに紹介していきます！



内容紹介・サンプル版は
こちらから↑↑

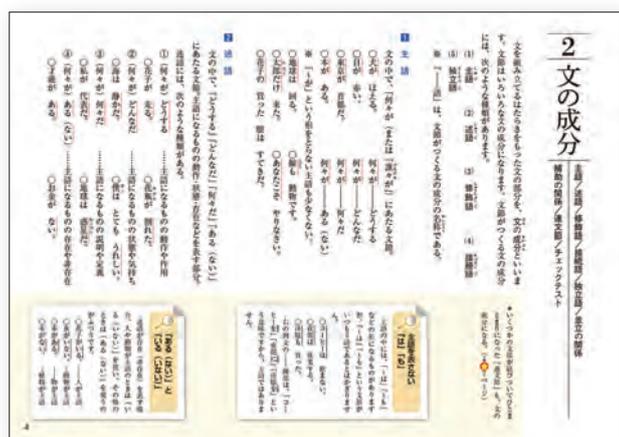
「中学文法」で充実した文法学習を！

「中学文法」はこれまで、紙の文法副読本として発行してきましたが、いつでも手軽に文法の学習ができるよう、今年度よりデジタル教科書のコンテンツにリニューアルしました。「投影しても文字が小さくて読みにくい」という声を受け、2022年3月より発売の『学習者用デジタル教科書+デジタル教材』にも搭載を予定しており、生徒一人一人の端末で使用することができます。中学校3年間の文法学習を簡潔にまとめているので、全学年でお使いいただけます。



「中学文法」の使い方

- ①ツールバーから「中学文法」のアイコンを選ぶ。
- ②目次から項目を選んでひらく。



▲画面1 文法解説

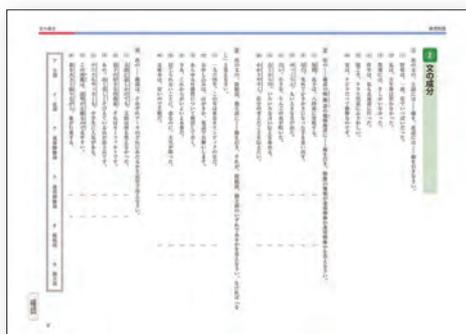
「中学文法」は、解説と練習問題で構成されています。解説では、文法事項を丁寧に説明しています。デジタル教科書では、教科書と「中学文法」の記述を合わせて確認することができ、より効果的に学習を進められます（画面1）。

さらに、章末にあるチェックテストで、正しく習得できたかを確認できるので、基本の定着をはかることができます（画面2）。

各章に用意している練習問題では、さまざまな問題に挑戦することで、実践力をのばすことができます（画面3）。紙に印刷することもできるので、必要な部分だけ印刷して書きこむこともできます。



▲画面2 チェックテスト



▲画面3 練習問題

授業だけでなく家庭学習でも充実した文法学習を進めることができるように、ぜひ「中学文法」をご活用ください。

次号(7月発行予定)
に続く。